

## NPO とセカンドオピニオン

小森 星児（復興塾塾長） <komori@kobe-yamate.ac.jp>

NPO の重要な機能として、アドボカシーが挙げられることが多い。NPO がもっとも特色を発揮できる機能であると説く論者もいる。この場合、アドボカシーとは特定の社会問題に積極的に発言し、公共政策や世論に影響を及ぼす活動を指している。NPO はそれぞれ独自の活動分野を有しているが、神戸復興塾の多彩な人材と幅広い影響力に比肩できる NPO は震災復興にとどまらず他の分野でもあまり見当たらないのではなかろうか。

しかし、その神戸復興塾でも、アドボカシー機能の点ではモデルとなるような実績は乏しい。学会や行政、あるいはマスコミなどにおける提言が大きく取り上げられることは少なくないが、それは個々の専門家としての発言であり、神戸復興塾の実績として誇るわけにはいかない。他の NPO でも、事情は似たようなものであろう。

それどころか、政策提言団体を標榜する大手シンクタンクでさえ、団体を代表しての意見を聞くことはまれである。また、各種審議会における委員公募やパブリックコメントに NPO が積極的に取り組む例は、今のところ数少ないのが実情である。

なぜ、アドボカシー活動が低調なのだろうか。一言でいえば、労が多くて功が少ないからである。立派な提言をしても、必ずしも取り上げられるとは限らないし、仮に注目されたとしても、行政がつまみ食いの的に予算化するなど提言した団体にとって不満が残る場合が少なくない。ボランティア的な当事者団体であれば、一部でも提案が実現すればそれなりの成果であるが、ただでさえ収支が引き合わない事業を営む NPO としてみれば、余計な活動にエネルギーを割く余裕が乏しい。

アメリカの場合、議会に呼ばれて証言をしたり、調査報告書が注目されたりすると、大口の寄付が集まったり、新しい補助金が獲得できるメリットがある。しかし、わが国ではいかに丹念に検討された傾聴に値するパブリックコメントでも、提言団体の業績に数えられることはない。NPO のミッションであることは承知しているが、これでは発言する元気が失せるのも無理はない。

もともとアドボカシーには2つの流れがある。ひとつはさまざまな理由で自ら権利を主張できない

人に代わって発言する代弁機能である。知的障害者、終末期の患者、子ども、外国人などがその例で、最近では登校拒否、DV、PTSD などより広い領域をカバーするようになった。今ひとつは市民の側からの政策提言で、周知のように福祉や環境、男女共同参画などの分野で成果を挙げている。

しかし、まちづくりの分野では、アドボカシーの役割は限られている。まず、当事者は権利者意識の高い住民である。さらに、ある段階になると専門家として行政やまちづくりコンサルタントが参画するのが普通である。複雑な制度を使い分け、交錯する利害を調整するのは容易なことではなく、一方の肩をもつ発言はかえって事態を混乱させるのがおちである。

今秋から、神戸まちづくり研究所篠山分室は「田舎暮らし相談所」を運営している。開設の経緯については研究所のホームページをご覧いただきたいが、人口の停滞に悩む篠山市では新しい総合計画の柱に田舎暮らし人口の誘致を掲げている。しかし、NPO のミッションは新しいライフスタイルを求めて田舎暮らしを始める人びとへの公平で客観的な情報の提供にあり、案内所は篠山市のためのキャンペーンの道具ではない。

この分室の機能は、アドボカシーというより良質なセカンドオピニオンの提供というのが適切であろう。医療の世界では、医師と患者の情報の非対称性が顕著で、患者の自己決定権は実質上無視されることが多かった。セカンドオピニオンは、公正で信頼できる情報の提供を通じて患者が納得できる治療を受ける権利を確保する手段である。

こうした情報の非対称性は田舎暮らしでも大きな障害になっている。このため、田舎暮らし案内所はホームページによる新鮮な情報の提供と、田舎暮らしの達人からなるナビゲータによる相談事業をトライしている。肩肘張ったアドボカシーより、ネットワークを生かしたセカンドオピニオンのほうが NPO にふさわしいと思われる。

本号は、2005年8月発行予定でしたが、その時の原稿に2005年度の活動の写真を掲載したものです。発行が遅れましたことをご容赦願います。

事務局

## 2004 年度明舞団地の活性化に向けての 3 事業報告

2003 年度の明舞まちづくりワークショップに引き続き、2004 年度は以下の 3 事業を実施しました。各々の記録は、「明舞団地のまちづくり 情報発信基地!!」(<http://hyogo-jkc.or.jp/support/m/index.htm>)をご覧ください。

### 明舞まちづくり広場の設置・運営

兵庫県・県住宅供給公社・都市再生機構と当研究所で覚書を交わし、役割・経費を分担して、明舞団地住民がコミュニケーションをとりあえる場としての「明舞まちづくり広場」を設置しました。

2004 年 7 月 10 日から 2005 年 3 月 29 日まで週 6 日の開所で、展示や講習会などの様々なイベントが開催され、約 6 千 8 百人の入場者がありました。研究所として、常駐職員(県の生活復興のための NPO 活動支援事業により週 5 日の雇用/週 1 日は運営委員で分担)を置き、まちづくり広場運営委員会の進行や記録(ひょうごボランティアプラザの行政・NPO 協働事業助成)を担いました。

住民の情報交流拠点としての効果が確認されたことで、2005 年度は明舞まちづくりサポーター会議と兵庫県の協働で継続して設置されています。



### 明舞団地街開き 40 周年記念事業

神戸県民局の委託と、生活復興県民ネットの地域活動推進講座助成を受け、シンポジウムと公開講座を開催しました。

#### 明舞団地街開き 40 周年記念シンポジウム

・ 2004 年 10 月 17 日(日)午後 於:明舞センター  
『元気な街であり続けるために』をテーマに、97 名の参加がありました。明舞団地開発時のビデオ

上映から始まり、小荒井順氏(多摩まちづくり研究会代表幹事)より多摩ニュータウン再生の事例紹介がされ、締めくくりとして、パネリストに田中晃代氏(近畿大学非常勤講師)、永田三喜雄・玉田一成氏(明舞まちづくりサポーター)、コメンテーターに辻信一(環境緑地設計研究所)、小森星児氏(ひょうごボランティアプラザ)、小荒井順氏、コーディネーターに野崎隆一(神戸まちづくり研究所)によるトークセッションが行われました。



明舞まちづくり公開講座(前期/フィールド編)  
まちづくりプランナーをナビゲーターに迎え、明舞団地のいいところ・改善すべきところを見て歩きながら、改善方法・手法を検討しました。

- ・ 2004 年 9 月 18 日(土)午前 神陵台  
講師:上山卓氏(コー・プラン)
- ・ 2004 年 9 月 25 日(土)午前 松が丘  
講師:辻信一氏(環境緑地設計研究所)
- ・ 2004 年 10 月 3 日(日)午前 南多聞台・狩口台  
講師:松原永季氏(スタジオ・カタリスト)
- ・ 2004 年 10 月 9 日(土)午前 於:まちづくり広場  
「住民主体のまちづくり」(講演会)  
講師:小林郁雄氏(神戸山手大学)

明舞まちづくり公開講座(後期/セミナー編)  
まちづくり活動実践者の方々を講師に迎え、住民主体のまちづくり活動へのきっかけとしました。

- ・ 2004 年 11 月 5 日(金)夜  
「新しい住まいづくり～コレクティブハウス」  
講師:野崎瑠美氏(遊空間工房)
- ・ 2004 年 11 月 12 日(金)夜  
「高齢者～NPO が支える」  
講師:桑原美千子(てみずの会)
- ・ 2004 年 11 月 19 日(金)夜

- 「高齢者～地域で支える」  
講師:日埜昭子氏(西須磨だんらん)
- ・ 2004年11月26日(金)夜
- 「住民主体の団地再生～マンション改造・建替」  
野崎隆一(神戸まちづくり研究所)

### 明舞団地マンション再生アイデアコンペ

当アイデアコンペは、兵庫県と明舞マンション管理組合ネットワークとの共催で、明舞12号団地(県住宅供給公社分譲マンション)をモデルとして、建替のみに頼らないマンションの再生・長寿命化の仕組みを探るために、建替と改造の2部門で募集しました。なお、(財)ハウジングアンドコミュニティ財団の「住まい・まちづくり活動団体の実践的な取り組みに関する調査事業」を受けて実施しています。

事業の流れは、以下の通りです。

- ・ 2005年1月17日 募集要項発表
- ・ 2005年1月22日 コンペ趣旨説明会  
居住者も参加して要望を伝えました。
- ・ 2005年2月7日 エントリー締切  
50団体(建替案29作品、改造案43作品)
- ・ 2005年2月28日 作品応募締切  
30団体(建替案12作品、改造案29作品)
- ・ 2005年3月6日 一時審査会(優秀作品決定)  
6団体(建替案3作品、改造案4作品)  
審査員長:小森星児氏(神戸山手大学)  
審査員:小浦久子氏(大阪大学)、高田光雄氏(京都大学)、高田弘志氏(兵庫県)
- ・ 2005年3月13日 二次審査会(最優秀作品決定)

二次審査会は、優秀作品のプレゼンテーションを行い、マンション居住者による投票にてそれぞれの部門の最優秀作品を決定しました。

## 兵庫まちづくりプラットフォーム(HMP)事業

ひょうごボランティアプラザの行政・NPO協働事業助成を受けてスタートしたHMP事業も、助成期間の3年間を終えました。この事業は、県内各地で様々なプロジェクトを企画立案し、行政、NPO、専門家をはじめ、まちづくりに関係する個人・団体が、協働して事業が展開できるように支援することを目的としています。

3年次の活動は、県土整備部住宅宅地課(現住宅計画課)と協働しての明舞団地活性化に向けての事業(別項目での報告を参照のこと)の実施と、播磨地区でのシンポジウム・但馬地区でのフォーラムを開催しました。ここでは後者の報告を行います。

### 播磨シンポジウム「災害にどう備えるか」

2005年3月19日(日) 午後、姫路商工会議所にて43名の参加で開催しました。



3名のパネラーからの報告、「人と人とのつながりの大切さ」/岡田勇氏(神戸市危機管理室)、「災害予防文化の醸成について」/青田良介氏(ひょうごまち・くらし研究所、前アジア防災センター)、「コミュニティ特性と防災」/野崎隆一(神戸まちづくり研究所)の後、コーディネーターを大西一嘉氏(神戸大学工学部)、コメンテーターを小森星児氏(ひょうごボランティアプラザ)にお願いし、パネルディスカッション形式で実施しました。特に、NPO法人ひょうごまちづくりフォーラムと共催で開催したことは、今後の新たな展開手法として期待しています。

### 但馬フォーラム「まちづくりと市町合併」

2005年3月30日(水) 夜に、但馬長寿の郷(八鹿町)にて19名の参加で開催しました。

合併という中で、新しい関係づくりをどのようにしていけばいいかということ、養父市の経験や朝来市・豊岡市の状況をお聞きして話し合いを深めました。

それぞれの記録は、当研究所のHPをご覧ください。今後の展開について、プラザの助成金は終了しましたが、他事業に絡めて各地で開催し、地域ごとの課題について深めていくとともに、兵庫県下のまちづくりに関わるNPO・専門家・地域住民・行政によるネットワークづくりを進めていこうと考えています。

事務局 <LET07723@nifty.ne.jp>

## 2005 年度神戸まちづくり研究所総会報告

神戸まちづくり研究所 2005 年度総会が 5 月 28 日(土) コミスタこうべにて、正会員 14 名中 13 名(出席 10 名、委任状 3 名)の出席で開催された。議長に小森星児氏、議事録署名人に松原永季氏、室崎益輝氏を出席正会員全員異議無く選出した。

第 1 号議案「2004 年度事業報告承認の件」について、以下の要望が出された後、出席正会員全員異議無く承認した。

- ・ 受益対象者の確定人数を記入すること。
- ・ 定款の事業を次年度に向けて整理すること。

第 2 号議案「2004 年度収支決算承認の件」について、出席正会員全員異議無く承認した。経常収入 33,904,268 円、経常支出 33,165,239 円、その他資

金支出 3,000,014 円で、次期繰越収支差額 3,529,887 円、当期正味財産 3,246,102 円となった。

第 3 号議案「2005 年度事業計画承認の件」について、出席正会員全員異議無く承認した。

第 4 号議案「2005 年度予算承認の件」について、以下の要望が出された後、出席正会員全員異議無く承認した。支出予算総額は 21,752,706 円である。

- ・ 退職金等の規定をつくり、退職給与引当金を考えていく。
- ・ 予算を修正した場合は、理事会議事録等を正会員に公表する。

事務局 <LET07723@nifty.ne.jp>

## 2005 年度神戸復興塾総会報告

神戸復興塾 2005 年度総会が 5 月 28 日(土)に コミスタこうべにて、塾生 36 名中 26 名(出席 13 名、委任状 13 名)の出席で開催され、議長に森栗茂一氏を選出した。

第 1 号議案「2004 年度事業報告の承認の件」について、出席塾生全員異議無く承認した。

第 2 号議案「2004 年度決算報告承認の件」について、出席塾生全員異議無く承認した。経常収入 1,100,020 円、経常支出 848,860 円、次期繰越収支差額、当期正味財産とも 1,959,493 円となった。

第 3 号議案「2005 年度事業計画承認の件」につ

いて、出席塾生全員異議無く承認した。

第 4 号議案「2005 年度収支予算承認の件」について、以下の要望が出された後、出席正会員全員異議無く承認した。支出予算総額は 90 万円である。

- ・ 前年度に予算化された震災 10 周年記念事業が未実施であり、今年度の事業計画に震災復興記念事業を加え、必要な予算については別途たてることとする。

追加議案「監事の選任の件」について、山口一史氏が選任された。

事務局 <LET07723@nifty.ne.jp>

## 神戸まちづくり研究所・神戸復興塾の事業(2004 年度・2005 年度)

### 2004 年度

- 神戸まちづくり研究所
- ・ コレクティブオフィス事業(5 団体)
- ・ 地域活性化のためのパソコン教室
- ・ 修学旅行受け入れ事業(4 校)
- ・ 研究者等研修受け入れ事業(延 4 回と 3 講演)
- ・ 明舞団地再生まちづくり講座フィールド編(4 講座)
- ・ 明舞団地再生まちづくり講座座学編(4 講座)
- ・ 総括検証・提言事業検証レポート
- ・ NPO 共同事務所整備によるコミュニティ活性化拠点づくり調査
- ・ NPO 育成支援アドバイザー派遣事業(派遣先団体延 30 団体)
- ・ 生活復興のための NPO 活動支援事業
- ・ 兵庫まちづくりプラットフォーム事業(姫路市・八鹿町)
- ・ 新たな生活様式実現を柱とする多自然居住推進事業
- ・ 明舞団地街開き 40 周年記念事業
- ・ (シンボジウムの開催と明舞まちづくり広場の開設)
- ・ 明舞団地マンション再生アイデアコンペ(72 作品の応募)
- ・ 住民による防災まちづくりに向けた調査
- ・ (地震火災ハザードマップの作成)
- ・ 住民主体の地域交通再構築プロジェクト

### 神戸復興塾

- ・ 勉強会の開催(4 回)
- ・ 日中交流・復興クルーズ(2004 年 8 月 13 日~25 日)
- ・ ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画委員会
- ・ 自主ウォーク(2005 年 1 月 16 日)

### 2005 年度

- 神戸まちづくり研究所
- ・ コレクティブオフィス事業(3 団体)
- ・ 修学旅行受け入れ事業(8 校)
- ・ 兵庫まちづくりプラットフォーム事業
- ・ (県民交流広場モデル事業検証ワークショップ 10 回)
- ・ 研究者等研修受け入れ事業(延 4 回)
- ・ NPO 等育成アドバイザー派遣事業(派遣先団体 10 団体)
- ・ 新たな生活様式実現を柱とする多自然居住推進事業
- ・ (田舎暮らし案内所開設、ナビゲータ会議・体験ツアーの開催)
- ・ 市民が創る交通コミュニティセミナー
- ・ 三ノ宮駅周辺における公共交通乗継円滑化関連調査
- ・ (三ノ宮駅周辺実態調査とバス総合時刻表の作成)
- ・ 明舞団地住民アンケート調査
- ・ 明石舞子団地住宅市街地総合整備事業整備計画策定に係る
- ・ データ処理業務
- ・ 郊外団地型マンションの再生手法に関する調査
- ・ ~明石舞子団地におけるケーススタディ~
- ・ 住民による防災まちづくりに向けた調査
- ・ (フォーラム「地域と NPO による防災まちづくり」の開催)
- ・ 市街地における商業団体・まちづくり団体・NPO の
- ・ ネットワーク促進事業

### 神戸復興塾

- ・ 勉強会の開催(3 回)
- ・ 公開講座の開催(2 回)
- ・ 恒例の - walk(2006 年 1 月 15 日)

# 写真で見る 2005 年度のいくつかの活動

## 研究者等研修受け入れ事業



関西学院大学災害復興制度研究所受入(2005/4/30)

## 修学旅行受け入れ事業



名古屋市立日比野中学校修学旅行受入(2005/5/25)

## 地域交通事業



三ノ宮駅周辺における公共交通乗継円滑化関連調査(2005/5/25)

## 多自然居住推進事業



篠山味まつりにて田舎暮らし案内所開設(2005/10/8)

## 防災まちづくりフォーラム



フォーラム『地域とNPOによる防災まちづくり』(2005/11/12)

## NPO等育成アドバイザー派遣事業



事業報告会の開催(2006/3/3)

# まち研ニュース 11号

## スリランカで出会ったまなざし

野崎 隆一（神戸まちづくり研究所事務局長） < ryuichi-nozaki@u-kukan.com >

コロンボ空港に6日午前1時に到着して、9日午前1時に出発。正味3日間の滞在という慌ただしい訪問でした。災害発生直後から今回で、現地入りは4回目という飯塚明子さん（CODEスタッフ）に同行するので、すべてお任せと気楽な旅です。今回は、資金支援の対象となる幼稚園プロジェクトの打合せと、漁業組合設立プロジェクトの打合せです。これまで地元連携組織（カウンターパート）と首都コロンボでの打合せはありましたが、現地へ入るのは初めてということでした。出発前にも現地からメールが来たり、設計図が送られて来たりしましたが、とにかく現地を見て、被災地の人々に会って、意見交換をして、すべてはそれからと考えていました。

今回の訪問で最も強く感じたのは、出会った人々の無垢なまなざしです。スリランカの人々は、肌が黒いこともあるのかもしれませんが、とても目がきれいです。子供達も大人も少しシャイなところがありますが、どこへ行ってもそのまなざしで私達を釘付けにしました。支援への期待が込められていますが、物欲しそうな卑屈な目ではありません。心の底から真摯に発言せざるを得なくなるようなまなざしです。この心を洗うようなまなざしに囲まれた3日間は、神戸における10年前の原点に想いを馳せ、何か新たな力を与えてくれたような気がしました。

7日は、被災地に100箇所幼稚園を建設するプロジェクトを推進している「子供と女性のための津波救援復興財団」のティラカシリさんの案内で南部のマータラの町まで出かけました。途中ゴールの近くで仙台コーポが支援して作られた幼稚園を訪問しました。子供達やお母さん達が花を持って出迎えてくれました。中に入ると子供達が、可愛い制服に身をつつんで座っており、窓からは迎えにきたお母さん達が見えています。その後も、被災して、壁のなくなった建物を使っていたり、お寺の本堂を使ったりしている幼稚園を見て廻りました。スリランカでは、幼稚園はすべて私立なので、行政の援助がありません。しかし、夕方から小学校の子供達の英語教室があったり、夜は地域の会合に使われたりで、

地域にとっても大切な場になっているようです。

8日は、マータラのホテルを出発、「漁民と漁業労働者のための連合協議会」のサラナパラさんの案内で、さらに東の漁村をめざしました。津波で被害を受け廃校となった小学校の教室で50人近くの漁民の人たちが待っていました。舟を失って漁ができなくなった人たちが、CODEから寄付された舟を共同管理しようというプロジェクトです。舟だけでなく漁具も必要だ、集魚灯は手入れが大事だから個人の所有が良い、漁獲の配分ルールを決めよう、次々意見がでて地区の若いリーダーのジャヤンタさんがまとめていました。あいさつを求められたので「スリランカの歴史の中で、このような助け合いのシステムがあったのではないのでしょうか。それを見つけて現代的に復活させると考えた方が、みんなに理解されやすいし、外国のまねをするのではないことで、誇りをもってやれるのではないのでしょうか」といったことを発言しました。そうすると即座に反応があり、仏教の教えで相互扶助の考えがある。その教えにしたがって行われていたシステムが協同組合の考えに近いと口々に発言する人が現れ、テグスを持ち出してスリランカの伝統的漁法を説明してくれる人も現れました。復興という大きな課題を乗り越えるためには、地域アイデンティティや誇りが大切なのは、神戸でも度々感じたことです。緊急対応よりその後の暮らし復興を支援するCODEとしては、カネやモノを送り込むだけでは無く、いろんな気づきを通してアイデンティティや誇りを持続させることの大切さを感じました。

今回の旅で、津波被害は海岸線に沿って長い線状の被災地を生み出しているという当たり前のことを認識しました。海岸線より南部では100m、東部では200mのエリアを緩衝地域として住宅の建設を禁止した政府の施策は、漁村というコミュニティを全く破壊してしまうことを、現地を歩いて痛感しました。帰ってからも、あのまなざしにどう応えればよいのか、スリランカの人々のまなざしが脳裏を去りません。

### 特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所・神戸復興塾

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号 TEL: 078-230-8511 FAX: 078-230-8512

E-mail = LET07723@nifty.ne.jp Homepage = <http://www.netkobe.gr.jp/machiken/>